

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871200154
法人名	有限会社 ウイズ・ケイ
事業所名	グループホーム あんど
所在地	愛媛県西条市桑村456番地
自己評価作成日	平成28年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人の人間として喜怒哀楽を出せるようにそれぞれが役割を持ち、お互いに助け合って生活している。新しい事にチャレンジをして、生き生きとした表情で過ごせる様にも支援している。（今年はきれいな衣装、マニキュアもして家族、地域の方々の前でフラダンスを披露した。）「食べることを大事にし、いつまでも口から食べて頂けるよう支援している。常に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「認知症だからといって出来ないことはない、新しい事にも取り組む事ができる」という考えのもと、年1回のあんど夏祭りに向け、利用者が新しいことにチャレンジできるように取り組んでいる。利用者は、家族の前で自分達が練習した太鼓や歌、フラダンスを披露することを楽しみにしており、利用者同士で励まし合いながら取り組んでいる。利用者個々の得意なことを活かして、食事作りや紙芝居を作って披露する等、活躍の場を作っている。
 利用者の一人は、シチュエーションにチャレンジし、材料は、職員が「何を入れますか?」「どのくらい入れますか?」と聞きながら、利用者が自分で考え調理できるよう支援した。出来栄を皆に褒めてもらったことが自信につながり、「次はカレーを作るうか」と言って意欲が見られるようだ。
 家族の中に、災害時に役立つ「ナイロン袋を使った調理」について習った方がおり、その方の協力を得ながら事業所の炊き出し訓練につなげた事例がある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あんど

(ユニット名) わらべ村

記入者(管理者)

氏名 楠橋 昌美

評価完了日 28 年 8 月 1 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「共耕共遊の里」を理念にしており、生きがいのある人生を家族や地域の方達、私達と一緒に過ごすことを目指している。職員は理念について理解しており、その為にはどんな介護、対応をしたらいいのか考え話し合っている。又、地域の方や来られた方にも理解してもらえるよう玄関前の掲示版に掲示している。 (外部評価) 「共耕共遊の里」と理念をつくっており、玄関前の掲示版に掲示して共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎年9月には福祉体験で中学生を受け入れており、7月には部活の一環で中学生8名が来居し、楽器を演奏したりお話ししたりと入居者と楽しく過ごされた。地域の文化祭では、入居者と職員が作成した「懐かしい遊び」の人形と四季のちぎり絵を展示してもらった。又、恒例の夏祭りでは今年も家族や地域の方々が多数参加して下さり、皆さんと楽しく過ごされている。 (外部評価) 地域の文化祭には、利用者のちぎり絵作品や利用者個々が作った紙粘土人形を1つの作品にまとめた大作を出展した。展示場所は、利用者が見に来やすいように1階の会場にしてくれている。「すごいね」「きれいですね」等、地域の方達の感想があり、利用者はたいへん喜こんだ。毎年、湯ノ浦ハイツで「あんど夏祭り」を行っており、利用者、家族、運営推進会議のメンバー、地域の方等、総勢60名程の参加がある。利用者が日々練習した歌や踊り、太鼓等を披露したり、地域の方や家族が得意なことを披露したりして、一緒に楽しい時間を過ごしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、認知症の理解や接し方の勉強をしたり、実際に入居者と話しをしてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議メンバーの方々のお声により、地域の文化祭への参加や、夏祭りにはフラダンスを披露することができた。運営推進会議では事業所の取り組みを報告し、色々なアドバイスももらっている。</p> <p>(外部評価) 会議は、午後7時から開催しており、事業所の取り組みや利用者の状態等を報告している。家族は、都合があり参加は少ないようだが、家族会時の内容等も踏まえて話し合い、家族の意見等も交えた会議に工夫している。認知症に関する資料やDVDを用いて、勉強会も行っている。会議メンバーが利用者にフラダンスを教えてくれて、あんど夏祭り時に披露した。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、市の職員や介護相談員も参加して下さっている。月に一度介護相談員が来訪し入居者と一緒にレクリエーションをしながら、気持ちを聞いて下さっている。</p> <p>(外部評価) 100歳の利用者に、市と地方局の職員がお祝いに来てくれた。中学生の福祉体験を受け入れており、生徒は車椅子の体験や使用方法を学んだり、利用者とゲーム等して一緒に過ごした。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については勉強会をしており、全職員が理解をしている。玄関やデッキの出入り口には施錠はしていない。入居者の状態をよく観察し、止めるようなことはせず見守りをし、違うことに目が向くような工夫をしている。職員間の連携もできており、必ず誰かはホールにて見守りをしている。</p> <p>(外部評価) 居間には、必ず職員一名が居て利用者を見守る体制を作っている。職員が持ち場を離れる時には、職員同士で声を掛け合って情報伝達しながら、利用者が安全で自由に暮らせるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については勉強会をしており、どうゆうことが虐待なのか話し合っている。代表者、管理者は、職員がストレスを溜めていないかよく観て、勤務表の作成や声掛けをしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) この一年で、学ぶ機会は設けておらず、一部の職員しか理解できていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書については、時間を十分とって丁寧に説明しており、納得したうえで同意をもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会は年4回実施している。その際は、家族間で意見が出しやすいような雰囲気になっている。遠方の家族や来訪の少なめな家族には状態が分かるよう手紙を書いている。又、来訪時には現在の状態を説明したり本人の希望をお話したりしている。 (外部評価) 家族会を年4回実施しており、行事の前後に開催することもある。又、一緒におやつを楽しむ機会も作っている。家族の中に、災害時に役立つ「ナイロン袋を使った調理」について習った方がおり、その方の協力を得ながら事業所の炊き出し訓練につなげた事例がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎朝の申し送り時にはミーティングもしており、入居者の状態、対応方法やいろいろな意見も聞いている。堅苦しくなく和気あいあいと自由な意見が出るような雰囲気を作り出している。さり気ない会話の中で入居者の思いを知り、それを職員間で共有している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎朝の申し送り時や職員全員が参加する全体ミーティング時に、職員の気付きや改善点等について話し合っている。職員の名前が分かるように、お揃いのエプロンに名前の上付けを付けている。利用者の中には職員を名前で呼ぶ方もいる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>介護福祉士受験者の為には参考書を提供したり、実技ではビデオを観ながら一緒にシミュレーションをして勉強する等協力している。資格手当も支給している。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員が不安にならないよう「緊急時の対応」の勉強会を開いたり、ターミナル期の勉強もしている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前面接を行い、ご家族や本人の状況や思いを少しでも理解できるようにしている。又、本人が安心できるよう何日間か体験して、他の入居者達とも馴染むことができるよう、本人が少しでも不安なく入居できるようにと思っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談や申し込みに来られた時に、困っている事や家族の思いをよく聴き、受けとめ、助言を行っている。必要に応じて専門医療機関への紹介も行っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとってどうすることが一番望ましいか話し合ったりアドバイスもしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する、されるではなく、共に支えあい、寄り添って生活している。昔のことをいろいろ教えてもらったり、入居者からいたわってもらったりする場面もある。職員とも何でも言い合える間になっている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 夏祭りやお花見、家族会のときなど家族と一緒に過ごす場面を作っている。又、本人の様子や思いを手紙に書いたり、直接伝えたりしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔幼稚園の先生をしていた方には、職員と一緒に作った紙芝居を皆さんの前や運営推進会議のメンバーの前でも披露した。	
			(外部評価) 親子で外食や外泊したいという家族の気持ちを受けて、利用者の思いに配慮しながら実現に向けて支援した事例がある。お墓参りを希望する利用者には、家族に相談し、現地まで職員が送迎する等して支援している。友人から手紙や電話がある方には「お返事を書きませんか？」と声をかけてサポートしている。又、毎年、家族宛に年賀状を出す取り組みを続けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の性格や関係性は把握しており、それぞれ孤立しないように席を決めている。中には世話をしてくれたり声掛けしてくれる入居者があり、お互いに助け合い楽しく生活されている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 電話を下さる方や年賀状のやり取りをする方はいる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入浴時には職員と2人きりになり、よく自分の気持ちを話して下さる。言葉に出せない方には、表情や様子を観て理解するようにしている。又、入居者が引き出してくれる場面もある。 (外部評価) 「介護日誌」は、利用者の言葉を交えながら日々の利用者の暮らしの様子を記入しており、家族が見てもその時の様子が解る記録作成に取り組んでいる。職員は、利用者が自身で決められるように「皆で考えてみて」「AとBがあるけど、どちらがいいですか」と決めたり選んだりする場面を作っている。	職員は、利用者の思いや以前の職業のこと、趣味等をよく知っているが、今後は、以前の利用者のことをよく知る方からも情報を得て、支援につなげていってはどうだろうか。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が来られた時にさりげなく聞いたり、日々の暮らしの中で本人に尋ねたりして情報を知るようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる、できないシート、分かる、分からないシートを作成しており、それぞれに把握している。又、状態について毎朝のミーティングで話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			日々の暮らしの中で、本人の本当の思いを知り、本人にとってどうするのがいいのか職員間で話合っている。又、家族とも相談したりしている。	
			(外部評価)	
			毎年、利用者個々にできること、できないこと・わかること、わからないこと等についてアセスメントして記録している。利用者の状況をもとに、家族の希望を踏まえて職員で話し合い、計画作成担当者がプランを作成している。実施内容は介護日誌に記録して、1ヶ月半ごとにモニタリング、3ヶ月ごとに評価して見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録には、日々の様子や本人の言葉、状態、それに対する対応がよく分かるよう詳しく書くようにしている。水分量、排泄、睡眠状態など全ての職員が把握できている。又、状態や気づき等毎朝のミーティングで話し合っている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況、希望により病院への送迎や受診など支援を行っている。又、その都度話し合い、臨機応変に対応している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			毎年、湯ノ浦温泉で夏祭りを実施している。フラダンスグループの協力のお陰で綺麗な衣装を着て踊ることが出来た。又、地域の文化祭では、入居者、職員で作成した作品を展示してもらった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週1回、協力医療機関の医師の往診があり、看護師が 24時間電話で対応して下さっている。医師と入居者 の間には信頼関係が出来ており、皆さん来られると笑 顔になっている。受診には管理者が同行しており、場 合によっては家族と共に受診している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>準看護師資格を有する職員が3名おり、利用者の体調 管理や処置等を行っている。持病で、食物に制限のあ る利用者については、主治医に食べても良いものや調 理法を教えてもらい、支援に採り入れている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護者は常に状態を観察しており、何か変化があれば すぐに提携看護師に連絡し医師の指示をもらってい る。介護者間では同じ情報を共有している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入院時には、本人の状態、対応方法を詳しく文書や口 頭で説明し、家族や医療機関と情報を共有している。 又、退院後にスムーズに生活がもどれるよう病院に出 向き顔を見せている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ターミナル期、看取りの事例がある。本人にとってど うゆうふうにしてあげるのが良いのか、本人、家族、 医師、事業所で話し合っている。事業所で出来るこ と、出来ないことはきちんと説明しており、その間は 家族はいつでも会いに来れるよう柔軟な対応をしてい る。又、本人が一人にならない様、ホール畳にて休ん でもらい、いつでも皆さんの声が聞こえるよう、話し かけてもらえるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>主治医からの指示に基づき、家族と話し合いながら支 援している。看取りの時期には、皆の姿や声がする場 所で過ごせるよう、居間の畳の間にスペースを作って 支援している。家族来訪時には、時に、他利用者 には、となりユニットに移動してもらって、本人と家族 のみでゆっくり過ごせるような時間を持てるよう気配 りを行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ターミナル期、看取りの事例がある。本人にとってど うゆうふうにしてあげるのが良いのか、本人、家族、 医師、事業所で話し合っている。事業所で出来るこ と、出来ないことはきちんと説明しており、その間は 家族はいつでも会いに来れるよう柔軟な対応をしてい る。又、本人が一人にならない様、ホール畳にて休ん でもらい、いつでも皆さんの声が聞こえるよう、話し かけてもらえるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>主治医からの指示に基づき、家族と話し合いながら支 援している。看取りの時期には、皆の姿や声がする場 所で過ごせるよう、居間の畳の間にスペースを作って 支援している。家族来訪時には、時に、他利用者 には、となりユニットに移動してもらって、本人と家族 のみでゆっくり過ごせるような時間を持てるよう気配 りを行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「緊急時の対応」の勉強会をしている。いろいろな場面をシミュレーションし全職員が対応できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練は年2回実施している。1回は夜間を想定した訓練を行い、連絡網を使った訓練もしており意見も出し合っている。家族や地域の方々の協力の下、非常災害時に役立つよう「ナイロン袋を使った調理」の勉強会を開いた。実際に釜戸でご飯を炊いたり、ナイロン袋で料理もし意見を交換した。 (外部評価) 備蓄は、居間の置下に用意している。災害時には「災害伝言ダイヤル」を活用することを家族に説明している。家族と協力して「炊き出し訓練」を実施した。近々、水害対策についての勉強会を予定している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人として尊重した対応をするよう心がけている。それぞれ役割ができており、「手伝いましょか」や「しましょか」等言って下さる。又、本人の気持ちを第一に考え、自尊心を傷つけない、自信につながるような声掛けをするようにしている。全職員、守秘義務については理解できている。 (外部評価) 「認知症だからといって出来ないことはない。新しい事にも取り組む事ができる」という考えのもと、年1回のあんど夏祭りに向け、利用者が新しいことにチャレンジできるように取り組んでいる。利用者は、家族の前で自分達が練習した太鼓や歌、フラダンスを披露することを楽しみにしており、利用者同士で励まし合いながら取り組んでいる。利用者個々の得意なことを活かして、食事作りや紙芝居を作って披露する等、活躍の場を作っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側が決めたことを押しついたりせず、自分の意見が出せる様な声掛けをしている。自分の思いを言えない方は、表情や様子をよく観て気持ちを汲み取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な流れはあるが、その日の本人の希望を尋ねたり様子を観て声掛けをしている。が、皆さん居室に一人であるよりはホールにているいるな事をして過ごす方が楽しいようである。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その時の気分で、自分が着たい服を選んでもらっている。又、季節の話や気温の話をして、適切な衣類が選べれるよう支援している。夏祭り参加の洋服の買い物では、本人が選びそれを着られている。夏祭りでは赤いマニキュアを初めて嬉しそう表情をされていた。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 腸閉塞をおこしやすい方の食べれる食材は限られているが、その中でいかに美味しく食べていただくか考え調理している。食材を見せて、これで何を作るか相談したりどんな料理ができるか話し合ったりしている。調理の下ごしらえや片付け等も一緒に行っている。	
			(外部評価) 利用者個々のできること、できないことを見極め、台拭き、食器洗い、食器拭き等を行えるよう支援している。利用者の一人は、シチュー作りにチャレンジし、材料は、職員が「何を入れますか?」「どのくらい入れますか?」と聞きながら、利用者が自分で考え調理できるよう支援した。出来栄を皆に褒めてもらったことが自信につながり、「次はカレーを作ろうか」と言って意欲が見られるようだ。現在、職員が食材の買い出しをするが「今後は利用者が買い物から携えることができるようにしていきたい」と話していた。病気の関係で食べられない食材がある方には、違う食材を使用し個別に対応している。季節や行事に合わせて食器を工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方の食べ方や状態によって刻みにしたり、ほぐしたり、柔らかくしたり等支援している。又、食べる量や栄養バランスを考え提供しており、それぞれ全量摂取を目指している。皆さんの好きなもの、嫌いなものは把握している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて口腔ケアの声掛け、誘導を行い、見守り、介助を行っている。プライバシーを配慮し、居室内洗面所でもらっている。又、残差物がないよう配慮しつつチェックしている。夜間は義歯を預かりポリドント消毒をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンはチェック表により把握しており、その方に合った誘導をしている。10時の体操時には、骨盤底筋体操も取り入れている。訴えない方は、表情や様子をよく観て声掛けしている。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄ができるように、チェック表を確認しながら支援している。夜間、居室でポータブルトイレを使用している方は、ベット柵を手すり替わりにして移動できるように、ベット横にポータブルトイレを設置している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で個々の便の状態は把握している。起床時に冷たい牛乳や水を飲んでもらったりヨーグルトやバナナ、ごぼう、サツマイモ等食物繊維の多い食事を出している。一緒に公園まで歩いたり等軽い運動も取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 暑い日が続く為、なるべく汗を流してもらいたいと思っている。時間帯については、本人の希望に添えない時もある。入浴されない日は、下着等着替えをし清潔を保っている。入浴中は職員と二人きりになり思っている事を話して下さっている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援している。夏場はシャワー浴の場合が多いが、希望する方には、浴槽に浸かれるように支援している。好みのシャンプーを使用している方がいる。冬至には、ゆず湯を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 毎日規則正しく生活ができており、その中で本人の希望に添うように対応している。皆さん仲良く日中はホールにいろいろな事をして過ごし、夜間はよく休まれている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があった時は、朝のミーティングで説明し連絡ノートでも分かるようにしている。職員は誰が何の薬を服用しているか把握している。又、処方薬の説明もすぐに見れるようにしており、副作用も知るようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれに役割はあり、嫌がらずに楽しんで出来ることをしてもらっている。自分達が一生懸命に作った作品を文化祭で展示してもらい地域の方達との交流により誉められた時は嬉しそうな表情をされていた。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎年7月には、湯浦ハイツに全員で出かけ夏祭りをしていいる。その際の移動は家族にも協力してもらっている。又、「今日はお昼食へに行こかあ」と、何名かと食事に行くこともある。「服が欲しい」と、訴えられる方とは買い物にも行っている。	事業所は、職員数のこともあり、利用者の外出希望に沿った支援に制限があることを感じている。さらに、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力を得ながら、取り組みをすすめてみてはどうか。
			(外部評価) 「服を買いに行きたい」と希望があれば、個別に出かけられるよう支援している。外出に出かけることもあるが、ミキサー食で対応している方についての支援は難しい。ハンバーガーを買ってきて隣接する公園で食べたり、ウッドデッキに出て日向ぼっこするような機会を作っている。年1回のおんど夏まつり時には、家族に送迎をお願いして利用者全員で外出する機会になっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いにより、原則的にはお金は持たれていない。が、レクリエーションで作り物のお金を使い買い物ゲームをして、使い方を忘れないようにしている。買い物計算プリント等もしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持たれている方がおり、いつでも好きな時に電話ができるようにしている。又、希望によりスタッフルームの電話から連絡を取ることができるようになっている。毎年家族に年賀状は出しており、喜ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールからは緑の木々が見え、運動場では飼い犬2匹が楽しそうに走り回っている姿を眺められている。デッキにておやつを食べながらのんびり過ごされることもある。夏場には簾を設置し日差しをさえぎり過ごしやすいようにしている。又、季節感のある壁面作りをしており、昔の事を思い出しがはずむようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2ユニットがL字で運動場を囲むような造りで、居間からウッドデッキを通り、運動場に出ることができる。居間の窓からの日射しが強い場合は、ブラインドで調節している。ウッドデッキで2匹の犬を飼っており、窓から犬の姿が見え話題になる。隣接するあんど公園は、春には桜がきれいに咲く。玄関には、文化祭に出展したちぎり絵の作品、廊下には、利用者の習字作品を掲示している。又、居間には、文化祭に出展した紙粘土の大作が飾っており、利用者が「これは私よ」と教えてくれた。作品をみながら訪問者とも会話が弾むようだ。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>廊下端の畳ベンチでくつろがれたり、外を眺めたりしている。皆さん仲が良く、ホールでも楽しそうに話をされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の写真やお孫さんにもらった物を大事に飾っている方はいる。歌の好きな方の居室にはカラオケがあり、家族が来られた時は一緒に歌われている。又、テレビを持って来られている方は好きな時に観られている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>カーテン、エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けてある。入居時には、自宅で使い慣れた物を持ち込んでもらえるように話している。歩行の不安定な方や混乱を招く方等には、様々な場面を想定し、家族としつらえについて検討している。食後は、自室の洗面台で歯磨き等を行えるよう支援している。夜間、天井の凹凸が気になる方には、コンセント型の電球に替えた。携帯電話使用中は職員はその場を離れ、操作に困ったような時のみサポートをしている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>個々に「できること、できないこと」シートを作成しており職員は状態を把握している。又、朝のミーティングでは気づいたことを話し合っており、少しでも自立した生活ができるような対応の方法を話し合っている。</p>	